

たどつのむかし

Vol.9 (H25.1 0.1)

「^{みなみがも}広がる遺跡：南鴨遺跡」



今回は南鴨遺跡に隣接する地点で 9 月 10 日に試掘調査を行いました。南鴨遺跡は昨年度に調査を行っています。

確認された遺構は柱穴と^{はしらあな}溝状遺構です。この柱穴のいくつかは並んで確認されています。そのため掘立柱建物が建っていた可能性が考えられます。そして、

この溝状遺構も南北方向からも

30° 西に傾いており、古代以降の^{じょうりちわり}条里地割に沿った^{つばかいみぞ}坪界溝ではないかと考えられます。

出土遺物は複数の土師器と瓦器、そして有溝穿孔土錘^{ゆうこうせんこうどすい}(中世の鯛網で用いられたとされる漁網用の錘)が 1 点出土しました。これらの遺物の多くは中世前半期(鎌倉時代)を中心とした遺物で、遺構の様子ともあわせて、今回の調査区のおよその時期は、古代末から中世にかけての遺跡ではないかと考えています。



有溝穿孔土錘

集落が展開していったのではないかと考えられます。そのため今回の調査区は新たに隣接する南鴨遺跡に追加されることになりました。今回のような試掘調査で前回の三井鴨取遺

跡のように新

たに遺跡とな

る者や、既存の

遺跡の範囲が

変更されてい

きます。南鴨遺

跡は昨年度の

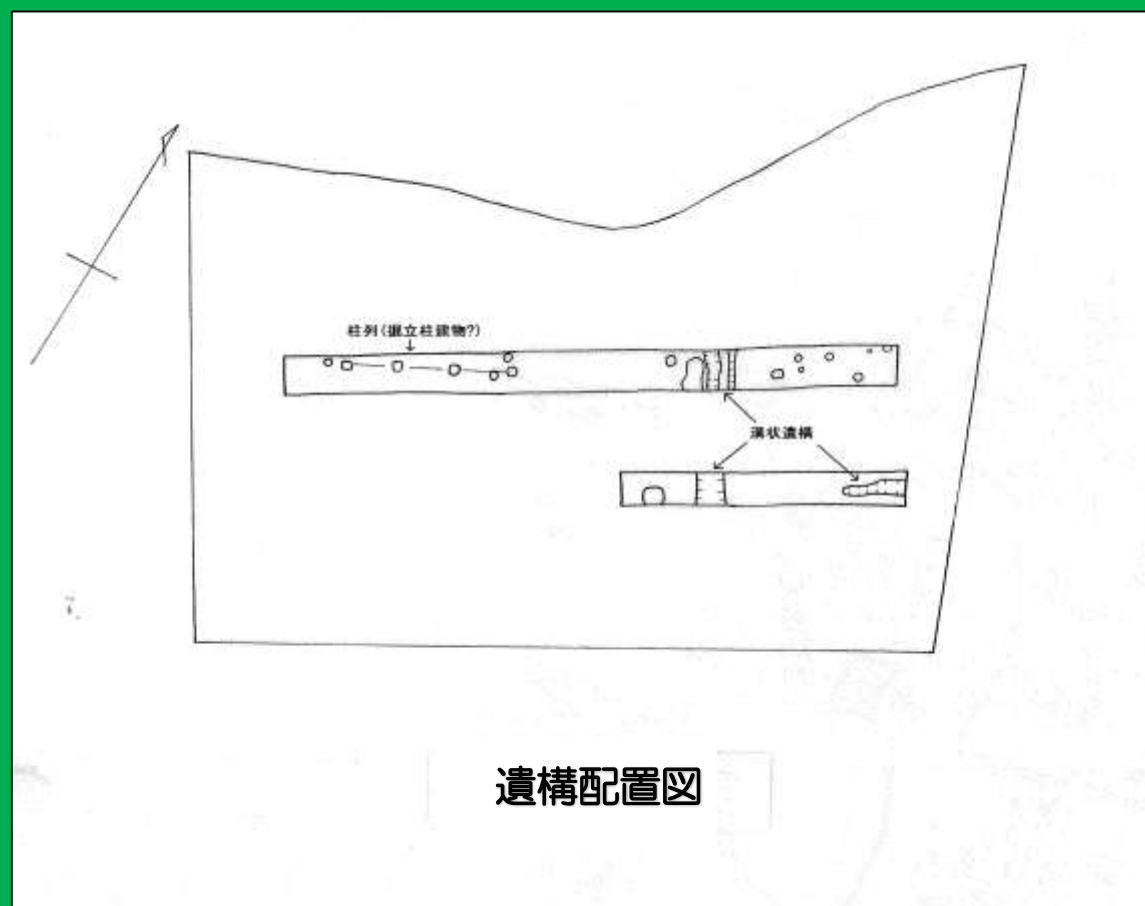
調査でも範囲

の変更があり、

地図上の四角

い囲みの北側が飛び出したところとその範囲です。このように試掘調査を行うたびに遺跡

は広がっていきます。南鴨遺跡は現在進行形で広がる遺跡なのです。



遺構配置図